

簡保の封筒に点字を 郵貯機構にあっせん（総務省）

総務省は10月2日、簡易生命保険から送付される封筒への点字表記を進めるよう郵貯・簡保機構にあっせんした。

近畿管区行政評価局が受けた相談を行政苦情救済推進会議に諮り、改善すべきだとした。

同機構が2013年度に視覚障害者に送付した点字の案内文書は90件。郵貯預金者は封筒・文書ともに

点字表記されているが、簡保契約者には封筒のみ点字表記がない。

日本年金機構では機構の名称や住所、電話番号を封筒に点字表記していることを指摘。取り組みを求めた。

（福祉新聞・第2734号 2015年10月12日）

「ノーマライゼーション 障害者の福祉」10月号・特集目次

＜特集＞コミュニケーション支援の最前線

差別解消法とコミュニケーション等支援（北野誠一）
高等教育におけるコミュニケーション支援の最前線（伊藤英一）

就労におけるコミュニケーション支援の最前線（朝日雅也）

意思決定の難しい人へのコミュニケーション支援（柴田洋弥）

自治体のコミュニケーション支援の最前線～明石市の取り組み（金 政玉）

＜障害当事者からの意見＞

コミュニケーション支援の最前線（中橋道紀）

視覚障害者のコミュニケーション支援～近未来に期待すること（江見英一）

伴走とコミュニケーション（高橋和代）

コミュニケーションについて（土本秋夫）

「意味づけ介助」と「同期的マルチモーダルな情報保障」（綾屋紗月）

コミュニケーションは自分のやり方で！（尾上裕亮）

障害への理解がコミュニケーション支援を進める（伊地山悠子）

コミュニケーション支援はどうあるべきか（山本深雪）

生きていくために必要なコミュニケーション（岡部宏生）

遠隔コミュニケーションの可能性（池崎 悠）